



神奈川3区国政対策委員長 前県会議員

木佐木 ただまさ

日本共産党 見解を紹介します

いのちとくらし
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会 会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

困難な時だからこそ多様性の輝く社会を

セクシャルマイノリティ支援団体 NPO 法人 SHIP を訪問

7月27日、日本共産党神奈川県委員会ジェンダー平等委員会で、横浜市内に拠点を置くNPO法人SHIPに伺ってきました。SHIPは、セクシュアルマイノリティの人々が、自分らしく心身共に健康に暮らせる社会、多様性が尊重される社会の実現に向けて活動しています。県内で数少ない支援団体の1つで、県や横浜市、横須賀市などの委託事業を数多く請け負っています。

県議だった数年前にも大山奈々子県議（港北区選出）とお話を聞きましたが、県の施策も日本社会の空気も随分変わってきており、コロナ禍での課題と併せてお話を伺いました。

相談増える一方、プライバシー 保護や財政難などの問題も

SHIPの方からは、若年層からの相談や交流会への参加希望が増える一方でコロナ対応のため交流の場の提供を制限せざるをえず、当事者の悩みや不安、苦しさに対する受け皿が十分用意できなかった実態が出されました。これまで公共施設を利用しての運営でしたが、施設側から参加者の連絡先提出を求められるなどプライバシーの点で課題があり、委託事業をとりやめたこともあったそうです。団体側で連絡先を把握すれば利用できるようにするなど、感染拡大防止とプライバシー保護とをできる運用の改善が求められていると感じました。

今日からできること

- 自分のまわりに性的マイノリティの人がいるかもしれないと思って行動する。
 - 性的マイノリティを笑いのネタにしない。
 - 「オカマ」「ホモ」などの差別的な言葉を使わない。使っている人が身近にいたら注意する。
 - 「いつ結婚するの」「子どもはいるの」など、結婚や子育てを前提としない。
 - 6色のレインボーアイテムを身につける。
- ※赤・橙・黄・緑・青・紫の6色のレインボーは性的マイノリティの尊厳と社会運動のシンボルとして使われています。レインボーアイテムを身につけることで、性的マイノリティの理解者（アライ）である、と示すことができます。
- カミングアウトを受けた場合、アウトティング^(※)を避けるため、本人が公表している範囲を確認する。
- ※本人からの性的指向などの告白を受けた者が、本人の同意を得ず他の人に漏らすこと。



神奈川県作成の啓発パンフレット

行政との連携した取り組みについては、昨年度から県が全国に先駆けてはじめた、当事者や保護者、関係者を対象にした出張相談事業の申し込みが想定の1.5倍になっており、課題の認知が広がり、需要が高まっているとの指摘でした。

今年度はコロナでできなかった4月からの委託事業について県からの委託費を返還しなければならず、財政運営として厳しい状況にあるとの話でした。NPO法人でも持続化給付金や家賃支援給付金の制度が使えることをお伝えしました。

個人の尊厳が尊重される社会へ

私たち日本共産党は、「女性だから」「男性だから」と生き方を押しつけられることなく、どの人も「個人の尊厳」が尊重される社会をつくるため、自分のなかにある「偏見」を乗り越え皆さんと一緒にジェンダー平等を実現したいと思っています。